

【第6回分科会のテーマ： -VLOOKUP 関数の使い方-】

エクセルでデータの検索や参照は非常に重要な作業です。VLOOKUP 関数は大量のデータから必要情報を素早く取り出す事ができるツールです。今回は3つの具体例から説明します。

※教本（2021年版）67P～68P 参照
（2024年版）66P～67P 参照

VLOOKUP 関数のしくみ 「Vertical lookup（垂直検索）」の略です

機能 範囲を縦方向に検索して指定した列の値を抽出する
書式 =VLOOKUP（検索値、範囲、列番号、検索方法）

- 検索値：探したい値
- 範囲：データが含まれる表全体
- 列番号：結果を取得したい列の番号（左端の列を1としてかぞえます）
- 検索方法：TRUE（あいまい検索）またはFALSE（完全一致検索）

「範囲」の左端の列で「検索方法」に従い、「検索値」を検索する。
一致した行から「列番号」で指定した位置の値を抽出する。

使用例 =VLOOKUP (A3, \$E\$3 ; \$G\$7, 2, FALSE)

セル A3 と完全に一致する値を商品リストの左端の列で検索し、一致する行（セル）があれば、その行の2列目にある値を抽出する。一致する行がない場合は、エラー値が表示される

【使用例】

- ①商品コードから自動で商品名・単価を表示させる
- ②社員番号から自動で名前を表示する
- ③郵便番号から自動で住所を表示させる

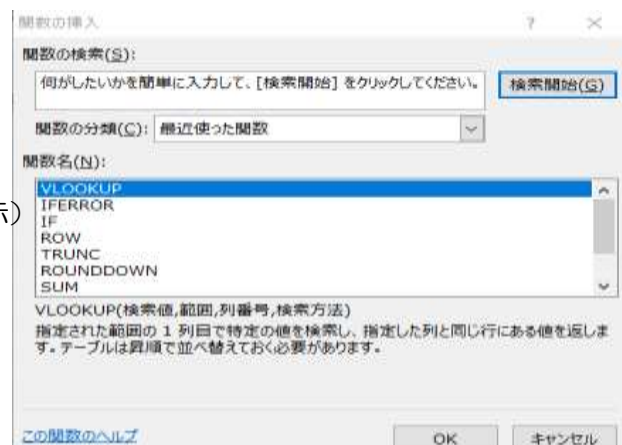
<問題> 添付資料を使用

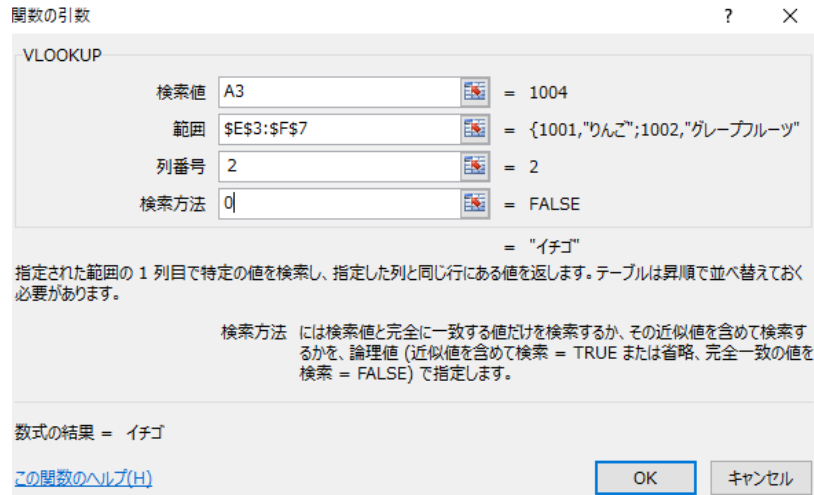
①商品リストから商品名を表示

（例 商品コード 1004 を入れ、自動に商品名表示）

- 「B3」に関数入力

「関数の挿入」 ➡ 「VLOOKUP」





- 検索値「A3」、範囲「\$E\$3:\$F\$7、2、0」入力
 - ※「範囲」は絶対参照に、検索方法「0」(FALSE)
- ➡「=VLOOKUP(A3,\$E\$3:\$F\$7,2,FALSE)」と入力される
- ➡商品リストより商品コード 0004 より売上傳票に「イチゴ」と表示される

②絶対参照を使わないと、式をコピーすると範囲がズれる

- ※「B3」の引数範囲を絶対参照にしなければ「B4以下にコピー」すれば」を式がズれて「B4」の引数範囲は「E4:F8」となり正しく商品名が表示されない。
- ※※絶対参照入力 式に「F4」入力、又は「\$」を入力

③列番号を間違えると正しく「商品名」が出ない

- 列番号:2 ➡ 商品名
- 列番号:3 ➡ 単価

④「TRUE」と「FALSE」の違い

- TRUE➡近似一致
- FALSE➡完全一致
- FALSE:0 を入力、TRUE:1 を入力
- ※実務では FALSE が圧倒的に多い

⑤「左に検索できない」

- VLOOKUP 関数は右方向にしか検索できない
- 例題では商品名から商品コードは検索できない

《間違いやすいポイント》

- 1.FALSE を忘れる
- 2.範囲固定(\$)忘れ
- 3.列番号ミス
- 4.半角・全角違い
- 5.数字と文字列の違い

⑥「存在しないデータでエラー回避」

IFERROR 関数と VLOOKUP 関数を組み込む

IFERROR関数のしくみ

機能 数式のエラー値を別の値に置き換える

書式 =IFERROR (値, エラーの場合の値)

「値」がエラーとなる場合は「エラーの場合の値」を表示し、エラーと
ならない場合は「値」を表示する。

使用例 =IFERROR (C3*D3, "")

C3、D3がエラーとなり掛け算した場合にエラー表示しないで、空白
(ブランク) 表示される

(例)

	C	D	E	
	単価	数量	金額	
1	15,900	5	79,500	15,900×5 = 79,500
2	15,900	A	#VALUE!	=(C2*D2)
3	15,900	A		=IFERROR(C3*D3,"")

<参考>

“ ” (ダブルクォーテーションマーク) 『 』 (引用符) に近い

EXCEL では

” ” は空白、” O” はO (文字) を表す

以上